ISSN 1348-5458

山梨大学附属図書館報

やまなし

2024.3.28
vol.21
no.2

contents

2 知と人のつながる図書館
4 図書館利用者の声
5 学生にすすめる本
6 図書館トピックス
●企画展示 「夏目漱石と漱石山房に集った人々」開催中 ［本館］
●講演会「訪問看護で出会った“生”と“死”」を開催 ［医学分館］
●附属図書館クリスマスコンサートを開催 ［本館］
●絵画展示 アートミックス2024 - 井坂研究室の試み- ［本館］
8 ●「若手研究者のための英語論文投稿セミナー2024」を開催 ［医学分館］
●令和6年度開館日について

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

lib.yamanashi.ac.jp

知と人のつながる図書館

学長補佐・教育学部附属教育実践センター長　長谷川（ハセガワ）　千秋（チアキ）

附属図書館は，授業や研究のちょっとした調べ物をするのに日頃から便利に使わせていただいている。研究室から徒歩数分で叢書や隣接分野の専門書が見られるのはありがたい。また，附属図書館HP内の「ジャパンナレッジ」は，国内最大の国語辞典である小学館『日本国語大辞典』第二版（１３巻）をはじめとする辞典類，奈良時代から江戸時代までの古典文学作品を収める『新編日本古典文学全集』（８８巻），日本史の事項を収める『国史大辞典』（１５巻），漢籍を含む東アジアの文献の翻訳文を載せる『東洋文庫』（８５８冊）など，日本文学や日本語学に必要な文献を所収する電子資料で，こちらも日常的に便利に使わせていただいている。学内LANにつながったパソコンから辞書や全集の語を一括で検索できるため，講義・演習で学生にも紹介している。一々の文献に当たるよりも遙かに容易で，学生にとってもレポートや発表資料作成の際の必見のアイテムとなっている。ただし，検索にはコツが必要で，仮名遣いや漢字表記の別など検索の仕方がよくないと，ほしい情報が得られない。授業では，学生には効率よく語を検索する方法を考えることや，得られた情報の妥当性について複数の文献を照合しながら吟味することなども，考える時間を取るようにしている。

私は，日本語の歴史，なかでも平安時代から江戸時代にかけての文字表記史を研究対象としているため，各地に点在する古典籍の調査で現地に赴くことがある。写本や版によって異なる本文を直接古典籍で確かめるのである。国会図書館や立川の国文学研究資料館にはよく通う。頻度は減ったが地方の文庫に行くこともある。文庫とは，もともとは「ふみのくら」，書籍（ふみ）を入れる庫（くら）のことで，貴族，大名などが蒐集した古典籍の図書室をそう呼ぶ。私が大学院生の頃は敷居の高い文庫も多くあった。文庫は研究を始めたばかりの院生がひとりで気軽に行ける場所ではなく，指導教員に紹介状を書いていただいてようやく閲覧がかなうこともあった。今では，公的機関の所蔵を中心に解析度の高い鮮明な古典籍の画像がウェブで公開されたり，文庫においても申し込めば高画質のプリントアウトを取り寄せることができたりと，現地に赴かなくても調査できるようになってきている。これには古典籍の保存という点でも利点がある。もちろん，現物を見ないとわからないこともあるが，大半の調査はこうしたアーカイブで片付き，デジタルなど想像も付かなかった時代の文献を扱う私も，書籍のデジタル化の恩恵を被っている。

書籍は，著作権の問題は残るものの，紙からデジタルに媒体が移行することにより，知の集積や発信方法も大きく転換してきている。一方で，紙による知の集積・発信もまだまだ見逃せない。附属図書館では，毎年テーマを変えて「近代文学文庫」の常設展が行われている。今年度のテーマは「夏目漱石と漱石山房に集った人々」で，図書館のご協力を得ながら近代文学が専門の尾形大先生がこの常設展を手がけている。「近代文学文庫」は，教育学部創設の目玉にしようと，近代文学の

湯地孝先生が中心となって明治期の小説の初版本を蒐集した，全国的にも珍しいコレクションである。国文学研究資料館と当時の近代文学の中丸宣明先生の協働でデジタルアーカイブ化も行われたが，展示はやはり実物で見たい。

「近代文学文庫」の関連では，山梨県には山梨県立文学館もある。文学館では，太宰治など山梨ゆかりの作家の資料蒐集と研究，展示を行っている。「近代文学文庫」といい，県立文学館といい，どの大学，どの県にも，そうそうあるものではない。しかし，地味で物静かな書物の魅力を，人々の心に届けることはそう簡単なことではない。まして，「タイパ」ということばの誕生・流行が象徴しているように，ぱっと見て瞬時に伝わるわかりやすさが好まれる時代である。タイパの時代に逆行しているようだが，タイパの時代だからこそ，ことばの研究を生業としてきた者として，文学ということばによる営みを大切に育て，人と関わる中でことばが人を深く傷つけもすれば，人を救い，その人自身が生きる道を見いだすことさえあることを，伝えていきたいと思う。

岩波文庫の巻末に「読書人に寄す―岩波文庫発刊に際して―」という岩波茂雄の文章がある。ぜひ原文でお読みいただきたいが，要約して掲げる。

『真理，芸術は万人に開かれるものであるが，長く特権階級に独占されていた。それを奪い返し民衆のものとすることを目的に，ドイツのレクラム文庫を範として岩波文庫を発刊する。分売不可として読者を束縛し数十冊を購入させる全集の販売方針を改め，一冊ごとの分売を可とし，古今東西，文芸・哲学・社会科学・自然科学における万人が必読すべき価値ある書籍を，簡易な装丁で携帯しやすい廉価版で提供するものである。この困難な試みを永続的に行うために，吾人の志を了解する読書子にうるわしき共同を期待する。』

文庫の値上がりにより廉価であるという感覚は薄れつつあるものの，特権階級に閉ざされていた名著を民衆に開き，誰もが手に取ることができるようにする出版事業を行うのだという岩波文庫創始者の思いは，媒体がデジタルに変わりつつある今も，私たちの心に重層的に響くことばであるように思う。デジタルは時間や空間を超えて万人に閲覧の可能性を開くが，高額の契約料がかかる電子ジャーナルなどの問題あり悩ましい（図書館長による，電子ジャーナル契約料対策のこのたびの発案はさすがと思う）。

最後に，大学の図書館は，研究者にとって知の集積するところであるとともに，学生にとっての図書館でもある。学生にとっては，学生の集まる，人と人がつながる図書館，人と本がつながる図書館として，学生の居場所の一つとなればと思う。

図書館利用者の声

図書館を様々な形で利用してみてください

医工農学総合教育部　修士課程　工学専攻
メカトロニクス工学コース　修士１年
堀田（ホッタ）　慎（マコト）

私は普段，山梨大学附属図書館を様々な形で利用しています。

１つ目は「書籍を借りる」という利用方法です。山梨大学附属図書館には想像以上に様々な種類の書籍があり，課題レポートや研究で参考にすることができて，非常に助かっています。また，書籍だけでなく，図書館の１Fで紙媒体の新聞を無料で読むことができます。

２つ目は「グループワークを行うための場所」としての利用方法です。図書館の１Fと２Fにはラーニングコモンズという場所があり，その中にグループでの話し合いができる場所や部屋があります。私も，グループで課題を進めなくてはならない時に，何度も利用させていただきました。プロジェクターを借りることができ，グループでの発表練習もできるため，非常におすすめです。

３つ目は，「勉強や課題を進める場所」としての利用方法です。私は，家で勉強や課題をすることが多いですが，気分を切り替えたい時に図書館を利用します。図書館の２Fと３Fには，パーテーションが付いた机があるため，より集中して勉強や課題を進めることができます。また，図書館には頑張っている学生の方がたくさんいるので，「自分も頑張ろう」と思えます。「やらなくてはいけないことがあるけどやる気が出ない」という気持ちの時は，図書館に足を運ぶと良いと思います。

このように私は，「書籍を借りる」という利用法だけでなく，図書館を様々な形で利用しています。皆様も，様々な形で図書館を利用してみてください。

図書館のすすめ

医学部　医学科３年
小佐井（コサイ）　美緒（ミオ）

今年の５月に新型コロナウイルス感染症が５類になり，最近は去年と比べて利用者が増えてきた気がします。図書館に慣れてなさそうな人もよく見かけるようになりました。今まで図書館を利用してこなかった図書館のルールや利用方法をよく知らない人も利用するようになっているのだと思います。ここでそんな人たちに向けて少し図書館のことについて紹介します。

図書館には，グループ学習が出来る学習室や図書館の映像資料を見ることができる視聴覚室があります。学習室や視聴覚室は，受付で用紙に学籍番号，氏名，利用時間を記入するだけで利用することができます。友達とのテスト勉強やグループワークの時などはホワイトボードがありとても便利です。

また，医学分館には特別利用と言って閉館時間中も図書館を利用できる制度があります。毎年春と秋に申請期間が設けられており，一度申請し，利用方法の説明を受ければ，在学中はずっと特別利用をすることが出来ます。申請期間が近づくとCNSでお知らせが出るので注意してみるのをおすすめします。

１つ注意しないといけないことは，特別利用の時間は図書館から出るのに学生証が必要だということです。私はたまに忘れそうになるので皆さんも図書館を出る時は学生証を忘れずに持ちましょう！

最後に，図書館の入り口の近くの受付には優しい職員の方々がいつも座られているので，何か分からないことがあればぜひ職員の方々に聞いてみてはいかがでしょうか。

学生にすすめる本

工学部　先端材料工学科
ウチヤマ　カズハル
内山　和治　准教授

◆**数学ガールの秘密ノート／学ぶための対話**

結城　浩 著　SBクリエイティブ

本館　2F一般書架　４１０．４

◆**圏論の道案内：矢印でえがく数学の世界**

西郷　甲矢人・能美　十三 著　技術評論社

本館　2F一般書架　４１１．６

生成AIの登場とアクティブラーニングの浸透により，私たちは対話を通じた学びの新たな可能性に目を向けるようになりました。この機に，対話の本質とその価値について考察する二冊の本を紹介します。

まず，「数学ガールの秘密ノート／学ぶための対話」は，数学の探究を通じて対話の大切さを描きます。物語の登場人物たちは，数学の問題を解く過程で対話を試み，単なる暗記ではない深い理解へと至ります。間違いが本質理解への重要な一歩であることを改めて感じ学習の楽しさを再発見できる一冊です。

次に，「圏論の道案内」は，「同じさ」と「変化」を捉える圏論の概念を，流れを掴みやすい対話形式で解説しています。圏論の基本概念である圏，関手，自然変換を学ぶことで，数学に限らず，「対話」を含め，生きる上で向き合うあらゆる構造を新たな視点から理解することができます。初めて圏論に触れる人でも全体像を掴みやすく，その後の深い学習への道筋を示す書です。

これらの書籍は，学問の探求における対話の力を明らかにし，大学での講義や日常の学びの中で積極的に質問し，参加することの重要性を教えてくれます。たとえ「くだらない」と感じる質問であっても恐れずに投げかけることで，自分の理解が深まるだけでなく，周囲の新たな洞察を引き出し，知的な旅の始まりとなります。対話を通じて，自分の理解に関心を持ち，思考を深め広げていくことで，終わりのない学びをより豊かにできるでしょう。

医学部　薬理学講座
シゲトミ　エイジ
繁冨　英治　准教授

◆**新薬の狩人たち成功率0.1%の探求**

ドナルド・キルシュ/オギ・オーガス著
寺町朋子訳　早川書房

医学分館　2F 開架書架(第三)　QV７４５/SHI

◆**ゲノム編集の世紀：「クリスパー革命」は人類をどこまで変えるのか**

ケヴィン・デイヴィス著　田中文訳 早川書房

医学分館　2F 開架書架(第三)　４６７．２５/GEN

薬が働く仕組みは教科書やインターネット検索で知ることができます。しかし，これらの薬が発見された経緯の記載は殆どありません。「新薬の狩人たち　成功率0.1%の探求」は，その歴史を教えてくれます。新薬探索の歴史は，有用植物の探索から始まりますが，工業技術やバイオテクノロジーの発達と科学的知識の蓄積とが相まって，土壌や動物の体内からも見つけられていきます。偉大な先人の偶然の発見から新薬が見つけられる過程のエピソードはどれも刺激的です。うまく行かず挫折しそうなところから逆転する人間ドラマもあります。その一方で，２０２０年のノーベル化学賞の受賞対象となったゲノム編集技術は我々の薬の見方や生活を根本からがらりと変える可能性があります。「ゲノム編集の世紀：「クリスパー革命」は人類をどこまで変えるのか」は，一流誌の編集者を務めた著者が，この分野の主要な研究者を丁寧に取材し，これを元にゲノム編集とは何かを詳細かつ平易に綴っています。医療やバイオテクノロジーに役立つかどうかも分からなかったRNA配列の基礎研究が，ゲノム編集技術へ応用されていく過程の研究者同士の熾烈な争い・切磋琢磨には時に共感し時に驚嘆させられます。クリスパーベイビーのような倫理的問題がどのようにして起こったかも丁寧に記載され，ポストゲノム編集技術の世界に生きる我々はどのような社会を望むかと問いかけられます。薬，医療，バイオテクノロジーに興味のある方にはおすすめの２冊です。

LIBRARY TOPICS

近代文学文庫　企画展示

「夏目漱石と漱石山房に集った人々 」開催中　場所：本館２階第一展示室

近代文学文庫に収蔵されている明治・大正時代を中心とした作品の中から，今回は夏目漱石関連の蔵書と，彼を慕って集った多くの若い文学者たちの著作の数々をご紹介します。夏目家に出入りしていた人物の豪華さに，改めて感心されることでしょう。

「生と死のコーナー」関連イベント

講演会「訪問看護で出会った“生”と“死”」を開催

令和５年１１月７日（火），附属図書館医学分館「生と死のコーナー」の関連イベントとして，講演会をハイブリット形式で開催し，地域の医療関係者，医学生，教職員など１２０名の参加がありました。

今回は，一般社団法人だんだん会理事長の宮崎和加子氏を講師にお招きし，「訪問看護で出会った“生”と“死”」と題し，ご講演をいただきました。

講演では，訪問看護の実践・普及・制度化や認知症の人の生きることの支援としてグループホームの普及に４０年間取り組んでこられた後，北杜市に移住されたこと，またそこで，住み慣れた地域・家で，自分らしく，暮らし続けるためのサービスが不足していると感じ，そのサービスを提供する事業を立ち上げられたことを話されました。これまで関わってこられた実例でその方が自分らしく生ききった様子をいくつか紹介されながら，それをどう支えるのか，地域に求められるプロの看護介護リハビリ集団づくりについて説明されました。宮崎氏のパワフルなお話や行動力に参加者は圧倒されていました。

参加者からは，「最期まで自分らしく生ききることを実現するための支援の重要性を改めて感じました」といった感想が寄せられるなど，有意義な講演会となりました。

附属図書館クリスマスミニコンサートを開催

令和５年１２月２２日（金），甲府キャンパス附属図書館において，教育実践創成講座片野教授の指導を受けている音楽科の学生及び有志学生により「～自由と幸福、ぜんぶここにある～」と題したミニコンサートを開催し，本学学生・教職員，附属幼稚園の園児，学外者ら６５名が参加しました。

世界平和に向けて思いを馳せ，親しみのあるクリスマスの楽曲・オペラなどを美しいソプラノ，バリトンの歌唱により構成されたステージに，参加者は，昼のひとときを心ゆくまで楽しんでいました。

Program

＊山梨アカデミークワイア（山梨大学音楽系学生と有志）による合唱
・夢みたものは / ぜんぶ / 鴎 / Cantique de Noël
＊学生による二重唱
・オペラ《フィガロの結婚》より『手紙の二重唱』
・《オペラ座の怪人》より『ザ・ファントム・オブ・ジ・オペラ』

出品者
井坂　健一郎
（山梨大学教育学部芸術身体教育講座教授）
増本　和花奈
（教育学部芸術身体教育コース美術教育系４年）
宮澤　弥生
（教育学部芸術身体教育コース美術教育系３年）

附属図書館絵画等展示事業
「アートミックス2024 - 井坂研究室の試み-」を開催

令和６年１月１６日（火）～１月２６日（金）の期間，山梨大学附属図書館本館２階第二展示室にて「アートミックス　２０２４―井坂研究室の試みー」を開催いたしました。

油彩画，水彩画，CG，ミクストメディア，写真等，教員及び学生の皆様の迫力ある熱い作品が展示されました。

井坂研究室では，絵画の領域を中心としながら，芸術の可能性を探るべく，油彩画，水彩画といった従来の絵画表現から，写真，CG，ミクストメディアといった表現方法まで多彩な表現方法を模索しています。展示された作品には，それぞれ繊細で複雑ないろいろな表現に心打たれるものがありました。

開催初日には，特別支援学校生徒のための見学ツアーも開催され校長でもある井坂教授自らの説明がありました。

今回は，新型コロナウイルス感染症が新型インフルエンザ等感染症から５類感染症に格下げされ初めての開催となり，学外者の入館等対応をコロナ前に戻しての開催となりました。今後は制限も少なくなりましたので，彼らの表現をより一層受け止めていただけたらと思います。

LIBRARY TOPICS

「若手研究者のための英語論文投稿セミナー2024」を開催しました

２０２４年２月１４日（水），附属図書館医学分館主催「若手研究者のための英語論文投稿セミナー２０２４」をZoomによるオンラインおよび対面のハイブリッド形式にて行い，３０名ほどの方々にご参加いただきました。

セミナー１部では，医学部生理学講座神経生理学教室教授，喜多村 和郎先生が「論文が通らない ～ アクセプトまでの苦難の軌跡」と題して，ご自身の経験から，投稿先の雑誌選定時には，各雑誌の刊行趣旨(scope)を理解することの重要性，投稿をする際にやり取りするエディター・レフェリーとどういった交渉をすべきかや，投稿時に付与するカバーレターでは掲載意義をアピールする絶好の機会であることなどお話しいただきました。また，『どんな有名な先生でも，リジェクトされたことがない研究者はいない』とのことで，ご自身の５回のリジェクトを経てアクセプトされたケースをご紹介され，勇気をもって論文投稿をしていくように参加者の方々を激励されました。

セミナー２部では，学術情報サービスを世界的に展開するエルゼビア・ジャパン株式会社　カスタマーコンサルタント 佐藤 慎祐氏に講師をお願いし，「エルゼビアのオープンアクセスへの取り組み～これまでとこれから～」と題して，エルゼビア社で提供しているオープンアクセスサービス，特に本学でも契約開始となる転換契約について，この種の契約がでてくる経緯・背景を含めてご説明いただきました。さらに論文投稿時にOA化する際の手順などについてもご講演いただきました。

令和６年度開館日について

令和６年度開学記念日（１０月１日）は授業日のため開館となります。
また，本館においては年度内の祝日も授業日は開館となりますので，
ホームページ等でご確認ください。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は，山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については，http://lib.yamanashi.ac.jp/ をご覧いただくか，本館 Tel:055-220-8066（情報サービスグループ），医学分館 Tel:055-273-9357（医学情報グループ）にお問い合わせください。

山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第21巻第2号
2024年3月28日 発行
編集：館報編集委員会
発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510
甲府市武田四丁目4－37
TEL 055-220-8063

● 表紙：本
場所：甲府キャンパス（図書館職員 撮影）

館報「やまなし」の由来：図書館報「やまなし」は山梨県,山梨大学の「山梨」と,樹木の「ヤマナシ」にかけています。図書館の西側に大きなヤマナシの木があり,毎年たくさん実をつけます。みんなが育てて喜ばれる図書館になるようにという願いがこめられています。